



學會彙報

雑誌名	漢文學會々報
巻	6
ページ	129-130
発行年	1937-11-05
URL	http://doi.org/10.15068/00146825

學會彙報

○昭和十二年度漢文學科講義題目

- 周易注疏演習
- 十三經解說
- 近思錄講義
- 周禮注疏演習
- 東塾讀書記
- 古禮解說
- 支那戲曲小説
- 古詩源
- 文華秀麗集

○本年度卒業生論文題目

- 繫辭傳考
- 六朝より唐宋にいたる佛教と儒教の交渉について
- 朱子に於て大成したる人性説
- 五七言詩發達考
- 楚辭の研究
- 陸象山の人物及びその學説

- 諸橋 教授
- 諸橋 教授
- 諸橋 教授
- 内野 教授
- 内野 教授
- 内野 教授
- 内野 教授
- 鹽谷 講師
- 竹田 講師
- 小野 講師

上原 好一

- 植田 袖
- 坂柳 童麟
- 陳蔡 煉昌
- 土肥 輝雄
- 内藤由己男

儒教に於ける五倫説
詩經の成立と學統の展開

松下 忠
吉田 元定

○本年度學會委員氏名

- 研究部 上原好一、古澤未知男、尾關富太郎、須藤功
- 編輯部 上島一夫、田口聖一、大島一
- 會計部 鎌田正、松下忠

○支那旅行團有志報告會

昭和十二年、五月三日(月)午後一時より、新館本部會議室に於て、去る三月十八日より四月初旬にかけて、北支、滿鮮方面を旅行して來た支那旅行團の報告會を開催した。會長諸橋先生を始め、會員三十有餘名出席した。

- 一、開會之辭 副手 鎌田正氏
- 一、挨拶 旅行團團長 小林 信明氏
- 一、行程 學生 土肥 輝雄君
- 學生 松下 厚君
- 學生 内藤由己男君
- 學生 吉田 元定君
- 學生 陳蔡 煉昌君
- 會長 諸橋 教授
- 助手 小澤文四郎氏
- 一、政治
- 一、教育
- 一、風俗
- 一、挨拶
- 一、閉會之辭

尙ほ終了後、一同、茗溪會館に於て會食した。

○春季講演會(第一回)

六月十九日午後一時より新館本部會議室にて開催。會長諸橋先生をはじめ會員多數の參聽を見、盛會であつた。

一、開會之辭

學生 上原 好一君

一、春秋災異說について

高師助教授 小林 信明氏

春秋災異說の實際に就いて論じ、ついでその本質に關して論及した後、春秋災異の思想は必ずしも三傳本來の面目ではない。むしろ西漢の通經致用の時運に合せんが爲になされたもので、其の結果はやがて百家の學の廢黜と儒學勃興の機運とを將來したと論定され、最後に春秋災異の說を通じて我々は又西漢の學術態度の推移を知ることが出来ると結論された。

一、話本の入話について

本學講師 竹田 復氏

一、閉會之辭

會長 諸橋 教授

尙ほ小林助教授の講演に關し、鎌田副手の意見開陳があつた。竹田先生の分は、本號所載、參照せられ度い。

○第一回研究發表會

十月二日(土)午後一時より新館本部會議室に於て開催。會長諸橋先生を始め、三十有餘名の會員の出席があつた。

一、開會之辭

學生 古澤未知男君

一、離騷靈均私考

學生 土肥 輝雄君

一、繫辭傳「象・辭」考

學生 上原 好一君

一、批評

內野 教授

一、閉會之辭

學生 古澤未知男君

同夕刻、一同、茗溪會館に於て、會食する所あつた。

○會員消息

○本學會委員として、此の二箇年有餘の間、本學會の爲一意専心、盡力され、本學會今日の盛大を來すに、與つて力あつた、前助手小澤文四郎氏は、今回外務省より支那留學を命ぜられて、去る拾月拾日(日)午後九時、東京驛發、壯途に就かれた。

○會員本學々生、堀池敬君は去る八月出征され、田上部隊に屬し、目下、上海戰線に於て奮戰中である。